

入 試 年度	2026 年度	入試時期	I 期入学試験	実施日	2025 年 9 月 17 日
課程	博士前期課程	研究科	文学研究科	専攻・ コース	演劇学専攻
入 試 方式	一般入学試験		試験科目	専門科目	
「解答」または「解答例」及び「出題の意図」					
【解答例（採点時の観点）】					
〔I〕					
1830 年に初演されたヴィクトル・ユゴーの戯曲『エルナニ』は激しい論争を巻き起こし、演劇史において古典主義の支配を終焉させた象徴的な作品と位置付けられる。本作が古典主義を打倒し、ロマン主義の形式を打ち立てた背景には、伝統的な演劇規範に対する破壊と革新がある。 ユゴーは古典主義が絶対視していた「三単一の法則」、すなわち時・場所・筋の一致という形式的な制約を打破した。これにより、劇的な時間の経過や場所の移動が可能となり、演劇は現実のダイナミズムを反映する自由を獲得した。また、韻律の面でも、伝統的な規則を意図的に崩す「句またぎ」を多用し、詩に感情を乗せるための新しいリズムを導入した。さらに、ジャンルの純粋性を重んじる古典主義に対し、ユゴーは「崇高と卑俗の混淆」を実践した。高尚とされる悲劇の世界に、日常的な語彙や滑稽な要素を混在させることで、人間の真実の姿を多層的に描き出した。 『エルナニ』が受け入れられたことは、形式美よりも個人の情熱や想像力を優先する時代の到来を告げるものだった。フランス革命以後、「個人主義」が台頭する社会を背景に、本作を通じて確立された「芸術における自由」という理念は、その後、劇文学が近代性を獲得していくなかで大きな転換点となった。					
〔II〕					
我々は日常で「演技」をしているのだろうか。こうした問いに関して、社会学者の E・ゴフマンは、日常における人々の相互作用を演劇的枠組みで捉える「ドラマトゥルギー」という概念を提唱した。彼の議論の核心は、人間が社会生活を営む際、無意識のうちに「演技」を行っているという点にある。彼によれば、人は他者と対面する際、その場の状況に応じて「フロント」や「マスク」を提示する。 例えば、医師やビジネスマン、あるいは特定の年齢層といった社会的属性を持つ者は、周囲から期待される役割に従って振る舞うが、これは一種のパフォーマンスである。相互作用の参加者は互いに相手の演技を読み取り、適切に対応することで、その場の均衡を維持する。こうした「演技」の常態化が示唆するのは、人間のアイデンティティの不安定さである。自己とは内面から湧き出る固定的な実体ではなく、その場の状況や環境、そして対面する他者に依存してその都度再構築される。					

ゴフマンの理論は、我々が「自分は誰か」と確信している感覚さえも、実は特定の場における演技の産物であるという事実を突きつけている。自己とは、パフォーマンスを通じて立ち上がる暫定的な存在であると言える。

【出題の意図】

演劇史・演劇学に関する専門的な知識と問題意識を問うとともに、論理的な文章表現の能力を問う。地域、年代、ジャンルなどについて多様な関心をもつ受験者を想定し、各自の関心のある分野から具体的な題材を選んで論述できるよう配慮する。

合否判定の方法及び基準

入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。